

効果的な教材や学習内容の例

◆ 全校で取り組む「あいさつ運動」

- 児童会・生徒会を中心にあいさつ運動を行う。
- ・PTAや地域の人たちの参加・協力も求めていく。
- ・あいさつについて考え合う討論集会を企画したり、あいさつをうまく返せない友だちの気持ちを考える学習を設定したりするなど、取組の過程や経過を大切にする。
- ・学校、家庭、地域が協働して、人権教育を推進するための環境の下地となる取組である。



いつものあいさつ

◆ 全校で取り組む人権を尊重した環境づくり

- 人権にかかわるポスター、標語づくりを行い、校内に掲示するとともに、地域への啓発に活用する。
- 全校児童生徒のメッセージを集め、「ありがとうの木」等の名前で掲示する。
- 外国の文化を知るコーナーを設置したり、外国語のあいさつの言葉を児童玄関に掲示したりする。
- 地域・保護者参加の授業参観等の機会をとらえ、人権に関わる学習を行い、理解を広げる。



心がぼかぼか
じんけん掲示板

◆ いじめをなくすために効果のある取組事例

- 自分の名前について調べて、自分や友だちのかけがえのなさに気づき、自尊感情をはぐくむ。
- 道徳の授業で絵本「私のいもうと」を扱い、いじめ問題について考え合う。
- 読み物道徳資料「英子の日記」とソーシャルスキルトレーニングを統合した取組。
(長野県教育委員会「集まってひとつの花」より)



いじめをなくすための講演会

◆ 個別の人権課題への取組事例

- いじめ・暴力の元被害者、被差別部落出身者、ハンセン病元患者等、人権問題の当事者との出会いを大切に、生き方に学ぶ学習を行う。
- SO（スペシャルオリンピックス）、フロア・ホッケーの交流活動や体験活動を契機として知的障害への理解を深める。
- キャリア教育と関連を図り、性別による固定的な役割分担意識にとらわれず、のびやかに自分の将来の仕事について考える。
- 外国籍児童生徒の保護者との料理等を通じた交流活動を通じて、多文化共生の理念を体得する。
- 養護教諭と連携し、エイズ教育を推進する。
- 社会科の授業からスタートし、アイヌの人々の生活や文化の歴史、部落解放や女性の地位向上をめざす運動など様々な人権について発展的に学習する。(参考：「あけぼの」(長野県同和教育推進協議会編))



ハンセン病問題を学ぶ



フロア・ホッケーによる交流

◆ 生命の大切さに関する教材の例

- 難病になったり震災等の被害にあったりした同世代の児童生徒の作文の学習から、医療関係や消防署等で救命活動に直接関わる人々の講話・体験談を聞く学習へ発展させる。
- 保護者、助産師等の協力を得ながら自分史写真絵本を作成するとともに、いじめや病気などを乗り越えた人の生き方に学ぶ。
- 赤ちゃんと赤ちゃんのお母さんやお父さんと関わる体験を通し、赤ちゃんの成長や命の大切さを実感しながら、相手を大切に思う気持ちをはぐくむ。



赤ちゃん交流会

◆ 保育所・幼稚園との交流と保育実習体験

- 児童生徒の発達段階に応じ、校区の保育所・幼稚園へ出かけ、保育実習の体験活動を行う。
- ・自分が必要とされる存在であることを確認し、自己肯定感を高める、自分自身の幼少の頃を振り返り、自分の成長を支えた様々な方の支援があったことに気づく、労働の苦労や責任、喜びについて実感する、自分が親になる時の子育てのイメージを養う等の効果を期待できる。



中学生の保育所訪問

◆ 福祉関係施設等での交流・ボランティア体験

- 障害者や高齢者施設等の訪問に先立ち、関係者等の協力を得て、車椅子体験や点字・手話の学習など、訪問先に応じた事前学習を行い訪問の効果高める。
- ・訪問後の振り返りの学習を大切にし、自己変容・実践的態度に結びつける。
- ・学校へ招待しての交流、地域の高齢者宅訪問等の学習も考えられる。



高齢者施設への訪問

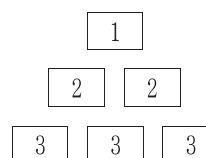
◆ 参加体験型学習の教材例

- 子どもの権利条約のカードを、ランキング（順位づけ）し、自他の権利を守るために自分のできることを考える活動。（権利条約のカードを英文にしたり、権利条約のコマーシャルビデオを作成したりする取組も考えられる。）
- 人権に関わる様々な写真の半分にしたものを学習者に配り、写真の全体をイメージしてから、もう半分を持っている相手を探す。自分の持っている固定観念に気づきながら、様々な人権問題と出会う活動。
- 問題やトラブルが生じたときに、攻撃的になったり我慢したりするのではなく、相手に自分の思いが伝わるように話すにはどうしたらよいかロールプレイで考える活動。
- パソコンで個人情報が入った仮想の Web ページを閲覧し、これをインターネット上で公開することによる利点と問題点について考え合う活動。

19 親は子どもを大事に育てて！
痛いめ、ひどいめにあわさないで！



ランキング

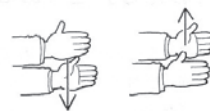


心地よいコミュニケーションづくりの例

みんなで拍手

気持ちを和らげ、次の活動に主体的に関わろうとする雰囲気になります

- ①ファシリテーターが、学習者の方に向けて両手をまっすぐ出し、左手の手のひらを挙げ、右手が左手を通過した時（上下）に、学習者は1回拍手します。
- ②最初はゆっくり行い、拍手がそろったら、徐々に速くしていきます。
- ③三三七拍子にしてもよいでしょう。



（『わたしと「あなた」そして「みんな」の人権』（長野県教育委員会）に掲載されています。）

エネルギーを伝えよう

次の活動に主体的に関わろうとする雰囲気になります

- ①学習者に一重円になってもらい、お互いに手を取り合います。
- ②ファシリテーターは、学習者がつないだ手を片手で握り、「用意！スタート」と言いながら、学習者の手を強く握ると同時にストップウォッチを押します。
- ③学習者には、次々に隣の人の手を強く握ってもらい、一周のタイムを計ります。2・3回繰り返します。

（『わたしと「あなた」そして「みんな」の人権』（長野県教育委員会）に掲載されています。）

自然観察に出かけよう

雰囲気を和らげながら、グループづくりができます

- ①活動内容について説明をします。
- ②ア～オまでは、手をたたきながら、ファシリテーターの言葉を繰り返し叫びます。
- ③「カ」は、ファシリテーターのみが叫びます。ファシリテーターがゆっくり言った言葉の（例えば、キノコ…3）と同じ人数でグループを作り、手をつなぎ、しゃがみます。

- ア 「自然観察にでかけよう」…→（4拍子で手をたたきながら、繰り返す）
イ 「リュックサックも持ったし」…→（手をたたきながら、繰り返す）
ウ 「双眼鏡も持ったし」…→（手をたたきながら、繰り返す）
エ 「オオカミなんか恐くない」…→（手をたたきながら、繰り返す）
オ 「だって、みんなと一緒にだもん」…→（手をたたきながら、繰り返す）
カ 「あーっ、見つけた カ・モ・シ・カ」…→（4文字なので、4人のグループになる）



留意点・2回目以降は同じ人とグループにならないように指示する方法もあります。

- ・グループに入ることができなかった人に十分配慮するようにします。
- ・動植物名の例とグループの人数
（2人）スギ、フナ、キク、クマ、バラ （3人）ヒノキ、シメジ、イワナ、ワラビ
（4人）カラマツ、マツタケ、タンポポ、リンドウ （5人）ライチョウ、フキノトウ、アブラゼミ
（6人）ヒマラヤスギ、ミンミンゼミ、シダレザクラ （7人）エリマキトカゲ

（『わたしと「あなた」そして「みんな」の人権』（長野県教育委員会）に掲載されています。）

わたしのジャガイモ

いつもの自己紹介とはちがった自己表現ができます

- ①ファシリテーターがモデリングをします。（模範を示します。）
- ②たくさんのジャガイモの中から自分のジャガイモを一つ決めて手に取ります。
- ③ジャガイモを自分だと考えて自己紹介を考えます。
○名前・チャームポイント ○好きな食べ物・好きな色等 ○好きな言葉・願い等
- ④班になって、ジャガイモを見せながら自己紹介をします。
- ⑤ジャガイモをいったんテーブルに戻し、たくさんの中から自分のジャガイモを見つけます。
- ⑥ジャガイモを見せながら班の中で一言ずつ感想を言います。

ボクは、
ジャガイモ
です。
好きな食
べ物は…



留意点・ファシリテーターがモデリングをすることで、子どもたちの雰囲気を盛り上げるように配慮します。

- ・全員が自分のジャガイモを見つけられたことの意義を確認するようにします。

（大阪府松原市立松原第七中学校の実践より 『人権教育指導資料集』（長野県教育委員会）に掲載されています。）